

ブックレット 著者からのメッセージ

「長良川河口堰とハッ場ダムを歩く」

伊藤 達也

(法政大学文学部 教授)

本書は長良川河口堰問題とハッ場ダム問題をカップリングしたものです。どちらも日本を代表する環境問題として、30年前、そして10年前に大きく話題となった巨大公共事業です。どちらも完成してしまいましたが、現在も問題は続いています。長良川河口堰問題等、巨大公共事業に関わる問題は建設中に大きな問題となりますが、環境問題は主として完成後に現れ、地域問題は完成後も続きます。それを現在、最も学問的に勢いのある梶原先生の執筆されたハッ場ダム問題とあわせ、この本で紹介できたことは大変幸せでした。本書を手にとり、是非、長良川河口堰、そしてハッ場ダムの問題現場に出かけていただきたいと思います。

私が長良川河口堰問題を知り、研究対象として関わるようになったのは、修士論文で木曾川水系の水資源問題を扱った時です。その時、こんなにも科学的知見を無視し、建設が強行される長良川河口堰に対して、ただ、研究対象とするだけでなく、自らが現場へでかけ、問題に関わる必要があると強く感じました。気が付けば40年が経ちましたが、問題は全く解決していません。いつか、しかもできるだけ早く、河口堰のゲートを上げて環境影響を調査し、よりよき対策を立てることができるよう、今も長良川河口堰問題と関わっています。